

【小児科】風しん抗体価検査 予防接種クーポン券利用率が悪すぎる件

小児科医師：富田 雄一郎

風しんの流行があり、お腹の中の赤ちゃんに重大な影響を与えてしまうため、成人男性への風しん抗体価検査と予防接種が無料となるクーポン券が自治体から発行されています。この利用率が激悪でコロナが治まっても風しんの問題が残ってしまうことになります。

【風しんとは】

別名「三日はしか」といいます。症状は熱と発疹ではしか（麻疹）に似ていますが、麻疹よりも症状は軽く、何だろうと思っているうちに症状が無くなってしまいます。合併症としては脳炎や血小板減少性紫斑病など命にかかわるものもありますが、合併頻度は2000~5000人に1人と言われています。しかし風しんが恐れられている理由はそれだけではなく、お腹の中の赤ちゃんが感染してしまうと先天性風しん症候群というその子の一生に関わる病気になってしまうということです。

【先天性風しん症候群とは】

風しんの免疫が弱くなっている妊娠5か月までのお母さんが感染すると、そのお腹の赤ちゃんに目や心臓、耳などに障害が出てくることがあります。

この子たちはその後の発達にも影響が出ることがあり、お母さんが妊娠1ヶ月で感染した場合50%以上、妊娠2ヶ月の場合は35%ほどの発症頻度とされています。

先天性の眼の病気
・白内障
・網膜症
・緑内障 など

先天性の耳の病気
・難聴

先天性の心臓の病気
・動脈管開存症 など

・低出生体重
・血小板減少性紫斑病 など



【風しん抗体価検査と予防接種クーポン券】

日本での風しん予防接種の変遷です。

1977年 女子のみ風しん単独予防接種が開始

1994年 1歳~7歳6ヶ月までの男女児および中学生男女生徒の風しん単独予防接種が開始

2006年 1歳と年長さんの2回を男女児に麻疹風しん混合予防接種(MR ワクチン)として開始

現在の形となって15年が経過していますがこの間も予防接種政策からあふれてしまった成人男性の間で風しんの流行が繰り返されていました。この状況を改善するため成人男性に対する風しん抗体価検査および予防接種無料クーポン券が配布されるようになりました。

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/hoken/001/p024979.html>

対象：1962年4月2日~1979年4月1日に生まれた男性

期間：2021年3月いっぱい

【対象の男性やそのご家族の方へ】

お母さんが風疹にかかる時期が妊娠初期であるほど先天性風しん症候群発症率は高くなります。

妊娠1か月や2ヶ月なんて外見では分かりませんし、女性ご本人も妊娠をはっきり自覚することは多くないと思います。まだこの公費制度を利用していない男性の皆様、通勤途中でうつしているかもしれません。

旦那様方々、奥様が妊娠初期でご自身がご家庭に持ち込んでいるかもしれません。健康な成人男性がコロナの予防接種を受けられるのはまだまだ先です。

今のうちに検査を受けて必要なら予防接種を受けてください。

因みに本来なら風しん抗体検査+予防接種だと全て自費になるので1万円以上かかります。